

# Kayak Dog

[Home](#) ▶ [工房 "KAYAK9"](#) ▶ [Wood Duck 12の製作](#) ▶ (16) 浮かべてみたら

## (16) 浮かべてみたら

2011年 11月 06日(日曜日) 09:42 | Author: サセックス卿 | [📄](#) [📁](#) [✉](#)

めでたく（仮の）進水式を迎えました。水中分解したら・・・と助手は一抹の不安を抱えていたそうですが、絶好の曇り空の下（まだニス塗ってないから）、沈に備えた伴走艇2ハイトを従えて漕ぎ出しました。

助手には「木靴」みたいと言われ、カヤック自作先輩のIさんには「ドングリみたい」と笑われましたが、キュートな船ではないですか。



助手が乗ると喫水はこの位、もう少し沈んでも良いですね。

### メインメニュー

[Home](#)

[工房 "KAYAK9"](#)

[Wood Duck 12の製作](#)

[カヤック製作準備](#)

[アトリエ](#)

[情報源](#)

[アマゾン号に乗りたい!](#)

[コンタクト](#)

[プロフィール](#)

[ブログフィード](#)

[Links](#)



マニュアルにあるようにシャープなバウ形状のためか、滑らかに波を切り、引き波も綺麗です。



適当にくっつけたシートは少し後ろ過ぎたようで、Iさんにも指摘されましたが、体重を前にかけての方が漕いだときのバウの振れが抑えられます。



JJが乗ってみるとバウ、スターンの浮きもなくなり喫水もちょうど良いみたい。バウが綺麗に波を切っていますね。



上の写真で良く分かるように、30インチあるビームのお陰で安定性はとても高いです。体を傾けてもグラツとくことはなく、安心して艇をロールさせて曲ることができます。こんなことも平気で出来ちゃいます。背後に遠く江ノ島。あそこまでだって行けそうな気がする。



比較対象がsit-on-topタンDEMしかないのが残念ですが、我が家の30kgを超えるポリエチレン製カヤックよりも直進性、旋回性ともに優れているように思えます（当たり前か）。その軽さのせいでしょうか、漕ぎ出しがとても軽くスピードに乗るのも楽ですし、パドリングで加速するのが良く分かります。

期待通りという所ですが、悩んでいるのはコックピット廻りの艦装です。大きなコックピットは乗り降りには楽なもの、パドリングの際に体を固定するのが難しい。まだフット・ブレイスも本式シートも付けていないせいもありますが、助手はこんなスタイルで乗っています。おいおい、それじゃsit-on-topカヤックの乗り方だよ。



『**カヤックは乗るものではなく、着るものだ**』とは正統派シーカヤッカーの台詞ですが、お遊びで乗っていてもコックピットに体をキチンと固定できる方が楽に決まっています。工夫してみる必要があるのは、

シートの位置：コックピット最後部では少し後ろ過ぎるようです  
フット・ブレイスの固定位置：船幅が広いので大きく足を広げないとサイドパネルに届かない  
ニー・ブレイスをどこに付けるか：膝をコーミングに当てて固定するのが大変です  
お尻と腰をサポートしてくれるシートあるいはパッドが必要

あんまり艀装に凝ってゆったりしたスペースが無くなっちゃうと、イヌを乗せられなくなるからここは熟考が必要です。空気の乾燥した冬の間ゆっくり塗装と艀装に時間を充てることにします。あっ、その前に、忘れない内に反省点をまとめておくつもりです。

最終更新 (2011年 11月 08日(火曜日) 18:01)

© 2009 [KayakDog](#)  
All Rights Reserved.

powered by Joomla  
free templates by Deposit Poker & Unlimited Web Hosting